
情け無し空拳

ペ子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
情け無し空拳

【Nコード】
N5269I

【作者名】
ペ子

【あらすじ】
題名通りです。誰もが体験するお話。

炭水化物の中でも一際可憐な風貌をもった物がある。白い粒の集団と対峙する物。白い粒の集団は集団であるが故に一粒では威力を発揮しない。しかし、その物は仮に身体を引き千切られようと私達の味覚を魅了するのだ。道具など一切必要ない。手で千切り口に運べる物。手軽で香ばしい匂いが食欲をさらに誘う。ああ、柔らかい手触り……。割ける瞬間に現れる毛皮、口の中に高級な毛布が敷かれたようなふわふわな食感。

しかしその高級さ溢れる風貌と味覚に囚われる人間が後を絶たず、争いがあちらこちらの国でしばしば起こった。

「ふざけるな！これは一人につき一つだ！」

「お前こそ、その手にある物を離せ！」

椅子に着き手を合わせ神に祈る儀式。私達が生きる為に失われたいくつもの命、犠牲になった生命に拝謝する。しかしその儀式が終わるとすぐに椅子が倒れ、人々が欲に溺れ銀色の箱を目掛けて走る。走る人間の顔は鬼のように恐ろしく、他の人々は抗争が終わるまで身動きが出来ずにいた。パンツ、パンツ、と高く鳴る爆発音が響き渡る。人々は耳を押さえ悲鳴を上げた。

なぜ彼らがここまで争うのか？その理由は一つしかない。その物の存在がこの者達を呼ぶからだ。手を伸ばせば届く物、しかし誰も欲しがらぬ。欲しい、欲しい、なぜ、どうして一つしか私の手にならぬのだ。銀色の箱に残る物は戦場で敗れた者達が残していった分だけだ。そして残る者達はまたその物を巡って争う。何もなくなるまで、すべてが無になるまで争いを続けるのだ。時に銀色の箱の近くにいる者に不服を唱える者も現れた。

“何が平等だ！どんなに足が速くとも、この箱に近い者には適わな

いではないか！”

“なら、すべての人間を国の中央に集めるのはどうだ”

“私達はそんな物に興味なんてないわ！私達に平等はないの？！”

この戦争を終わらせる術はないかと国の権力者は考えていた。そしてとうとう発見したのだ。遙か昔から伝わる神々の遊びを…誰もが為せる賭事を。

「さあ皆の者、私の手を見るがいい！そしてお前達も手を翳し神に祈るのだ！」

腕を交差し全身の神経を指に込める。絡めた手をそのまま胸に引き寄せ、僅かな隙間から神の姿を覗く。これが神か、神が私達に下す決断…この光の形はまさしく天からの合図だった。

「じゃんけん…ポイツ…！」

二本の指の先が天に届くまで伸びていた。人差し指と中指の長さはさほど変わらない。しかし、その二本から覗いた景色…、そこには勝ち誇ったように拳を挙げる少年が立っていた。

*

「先生、山田君が後出ししてました！」

「山田のパン没収…！」

(後書き)

解説

物 パン

国 教室

権力者 先生

銀色の箱 給食の時にパンが入っていた箱

パンツ、パンツ (爆発音) パンが入っていた袋を破裂させる音

ふざけているようで本気です。ちなみにご飯の方が好きです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5269i/>

情け無し空拳

2011年1月27日02時10分発行